

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373900634		
法人名	アイミ株式会社		
事業所名	グループホーム ソブエピア (藤)		
所在地	愛知県稲沢市祖父江町祖父江宮西58-4		
自己評価作成日	平成2511月22日	評価結果市町村受理日	平成26年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.aichi-fukusi.or.jp/kaigokouhyou/index.html">http://www.aichi-fukusi.or.jp/kaigokouhyou/index.html</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成25年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者ひとりひとりの今の気持ちを第一に考え業務はあとまわしにしてその時々のお気持ちに添ったケアや要望を優先している。そのため職員間で情報交換を活発におこない時には両ユニット間で協力しあい取り組んでいる。夏の暑い時期も外にでられるよう朝食後の洗い物はあとまわしで皆で外に出たり冬は暖かい時間に外出することを優先して業務を振り分けたり「1日最低一度は外の空気をすいましょう」とスタッフ同士が協力して取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

訪問した時が、ちょうど散歩に出かけるときで、玄関に利用者が車いすに乗っている人、一人で歩行できる人、椅子に座って日光浴している人の様子から楽しそうな表情が見受けられた。個別外出も希望があれば善光寺・西尾歴史民族資料館・美術館等へスタッフ同士が協力して取り組んでいる。家族への情報には「ピアだより」(個人の写真付)を利用し月1回利用者の様子が丁寧に書かれ送付されている。今後は利用者の特性を生かし、その人らしい役割をもう少し増やし生活の質の向上を図って行けるように努めたいと管理者は話している。利用者家族のアンケートからもほとんどの方がよく話を聞いてくれて、安心して任せているとの回答であった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員とともに作りあげた利用者の立場にたった理念を毎朝の申し送りで唱和しながら意識の統一を行なっている。理念が形式的にならないよう常に頭におき利用者と接するようつとめている。	「家庭的な雰囲気の中で安心して暮らせる」という理念は、誰でもが目に付きやすい居間や職員室に掲示されている。また、理念を毎朝唱和している。職員は家庭の延長で自分の親と思って常に利用者の立場に立ってケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は施設の西の畑を地元のかたに耕してもらい収穫物をいただいたり季節ごとの花を摘ませてもらったり会話をしたりとの交流ができ利用者さまたちの楽しみも増えた。	今年度は地元の方から野菜やお花等を頂いたり、話相手になって頂いたり、施設周辺の散歩や喫茶店に行き地域の方と挨拶や会話を交わしたりしながら親密感を持つように取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を行なうことで地域のかたに認知症に対する理解を求めたり 困った事があれば気軽に声をかけてくださいと伝えている。地域貢献とまではいたっていないのが現状。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は一年ぶりの開催になってしまった。一方的な発信ではなく双方向のやりとりになるよう努力したい。市役所の方からも来ていただくだけでなくこちらから出向くことも大切と助言いただいた。	利用者の入退所や病状が不安定だったりで、今年度は1回のみ運営推進会議である。運営推進会議では利用者の現状報告や参加者との意見交換等を行い、その意見をサービス向上に活かしている。	会議の意義を再確認しながら開催回数を多くすることを含めて、地域の理解と支援を得るために色々な立場の方に参加を呼びかける取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議ごとに市役所の方にも参加していただいている。事情を抱えた利用者さまは市担当者、包括支援センターとも連携をとりながら支援している。	市役所には、利用者や家族のこと等課題解決に向けた対応などの相談や助言を頂いている。今後はグループホームのサービスの取り組みを記載した「ピアだより」を作成し、積極的に伝えていきたいと管理者は話している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束しない暮らしを支援できるよう職員が常に目配りし情報交換しながらケアしている。言葉や態度での拘束もありうることもカンファレンスなどで話しあい理解を深めている。	身体拘束の内容とその弊害を認識しており、5:00~7:00(起床準備で職員が一人の為)以外は玄関に施錠をしていない。職員は常に9人がどこにいるか確認し、安全を確保しつつ自由な暮らしを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に対する意識は職員に浸透している。日頃の言動にもお互いが注意をはらい未然に防げるよう努めている。ストレスを一人で抱え込まないよう職員の話聴き一緒に考えるようリーダー職も配慮している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の必要な該当者がなかったことから管理者、職員ともに理解が薄く万全の体制とはいえない。現在「見守り支援」を受けている利用者さまもあり理解するきっかけとなっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には丁寧な説明をこころがけているためトラブルはない。介護報酬の改定などで利用料が増加する場合なども不安や疑問に納得できる説明をおこなっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時に意見や要望を問いかけ言い出しやすい雰囲気づくりに配慮している。言い出しにくい場合に配慮し玄関に意見箱を設置している。いただいた意見はできるだけ早急に対応するようこころがけている。	玄関に意見箱を設置したり、家族の訪問時に相談や意見が言える環境を提供している。外部評価のアンケートにも家族の要望が出され、職員間や運営推進会議で話し合い、サービスの質の確保・向上に反映させるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案は丁寧に取り上げている。個別懇談の機会も設けた。逆に職員からどんどん提案してほしいと感じている。	職員の個別懇談会が年1回行われている。自己評価を行ない、今後どのように働いて行くか等を尋ねている。職員の意見を十分に聞き取り働く意欲の向上につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全体会議ではなく、自己評価を基にした個別懇談の時間をもうけた。今年度は土日手当の支給、一時金の支給などが実現して少しずつでも改善している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の要望も大きく研修の機会を多くしてきた。こちらからの機会の提供より「この研修にいきいたい」とのスタッフの意欲をいかにサポートしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会へ加入し、他事業所との意見交換や交流の機会は必要であると実感しているので機会をつくっていききたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ずご本人と向き合い思いや不安を受け止め安心感を持っていただけるよう努めている。また何気ない会話の中から生活状況やその背景を理解するようこころがけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の立場にたって何を望んでいるのかが十分に聴き事業所としてできる事を伝えながら意向に添うよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の実情をもとに早急な対応を見極め可能な限りの対応・方策を検討できるだけ柔軟な対応をこころがけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護されているという気持ちをなるべく取り除けるよう理念でもある「できる事を増やしましょう」という支援を大切にしている。また利用者から教わる機会を多くつくるように努めともに支えあう環境づくりを目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	離れていても様子が伝わるようにこまめに報告・相談し絆を感じながら生活できるよう支援している。毎月の様子を伝えるおたよりは一人ひとり個別に家族との橋渡しになるようにとの思いで届けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居以前より通っていた病院・コンビニ・喫茶店などを利用しなじみの人との交流の場になっている。知人や親戚の訪問も歓迎しい時間が過ごせるように支援している。	病院等での受診仲間、コンビニで声を掛けてくれる人、喫茶店で働いている人、知人、特養に移住された友達等の関係を断ち切らないような支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係の良し悪しを職員は把握している。様子をみながら孤立しないよう職員が間に入り仲をとりもち円滑な関係の調整役となっている。席や場所を準備するときには利用者の性格や相性に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時の状態にもよるが必ず次につなげることを心がけている。移られても機会があれば様子を見にいたりご家族から話をきいたりして関係を継続している。情報は細かく伝えダメージを少なくするよう心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人とのコミュニケーションのなかで意向を確認しスタッフ間でよく話し合い出来る限り実現している。意思疎通が困難な中でも表情やしぐさから汲み取る努力をしたりご家族から情報を得ている。	利用者と職員が馴れ合いにならないように声かけには注意し、利用者本位の支援を行なっている。利用者が話しやすい環境や雰囲気作りを行ない、思いや暮らし方の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に「暮らしのシート」を使い、ご本人や家族から生活歴・習慣・好みなどを聞き取りスタッフ間で共有、入居後も引き続き情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設の生活リズムにこだわるのではなく一人ひとりの意向に添えるよう考えその日の体調などに応じ臨機応変な生活をしていただいている。そのため毎朝の申し送りは大切な時間である。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月という期間にとらわれず心身の変化・本人の思いに応じて見直しを行なっている。月に一度のカンファレンスでは居室担当者を中心に職員間で活発な意見交換をおこない反映している。	モニタリングは毎月行ない、アセスメントは3ヶ月に1回見直しを行なっているが、状態変化が見られた場合は、随時見直しを行なっている。「私の暮らしシート」を使い、家族からの情報を得たり、詳細記録や職員の意見を取り入れて、介護計画を立てている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルへの記録で情報の共有をしている。食事・水分・排泄等のチェック、また観察したこと感じたことなど細かく記入している。各フロアには細かなことも申し送れるよう伝言ノートを作り活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のケースにあわせ相談しながらできるだけ柔軟な対応を心がけている。ご本人だけでなくご家族も含めた支援をと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	協力施設のバスを借り大人数での外出を実現したり夏祭りなどの行事への参加をしている。警察や消防との連携はこころがけているが地域資源をまだ上手に生かせていないのが現状である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居まえからのかかりつけ医の希望があったり要望に応じてきめ細かく対応している。ご家族と協力し受診対応をおこない必要であれば同行したり情報を伝えたりしている。	眼科、歯科医の往診や常勤の看護師による健康管理で、適切な医療が受けられるように支援している。また、家族とも連携を図りながら、情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員がおり利用者の持病や普段の様子を把握している。介護職員の一人ひとりも体調の変化を見逃さず細かな相談・指示を受け連携している。また夜間もいつでも連絡がとれる体制にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し情報交換に努めている。主治医との関係づくりも積極的におこない早期退院へむけ連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化にともなうアンケートに基づき事業所のできる限りの支援や方針については理解いただいている。心身状態の変化に応じて随時意思を確認しながら取り組んでいる。体制が整っておらず看取りは行っていない。	入居時に、重度化や終末期に向けてホームで出来る範囲を家族に説明して同意を得ている。「風呂に入れる」が一つの基準として説明し、次の所へ行くまでの支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルが目のつくところに貼ってある。個別の対応マニュアルを作成。救命救急法の講習も行なっているものの不安のある職員がほとんどのため近く講習をおこなう予定である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練・消防訓練を定期的に行っており実践力がついてきたと自覚する職員も多い。今年度は非常食・毛布など備蓄品の充実につとめた。	避難訓練は定期的に行なっており、9月にはAEDの操作法、人工呼吸や夜間想定訓練を行なっている。災害時の手順書なども整備され、毛布、缶詰、おむつなど備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉掛け・排泄時などのプライバシーの配慮、入室時のあいさつなどをこころがけ尊厳をそこなわない支援に取り組んでいる。馴れ合いになってしまうなか個人情報に対する意識などもふくめ職員間で確認しあい改善にむけている。	利用者を人生の先輩、親として敬い、優しい言葉掛けや言葉尻に注意するように心掛けて支援を行なっている。常に自分と重ねて、嫌な事はしないという姿勢を職員全員が持っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や思いを表現しやすい雰囲気づくりはこころがけている。意思表示が困難なかた・判断が難しい方でも気持ちをよみとる努力をし満足感をもっていただくことができている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペース、その日の体調にあわせて相談しながら対応している。それによって一日の過ごし方、支援の仕方を組み立てる。業務主体のケアはしないことをスタッフも理解している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の洋服などご自分で選べるかたは希望を聞き支援している。男性の方は朝の身だしなみとして髭剃りを欠かさない。外出時には帽子やひざ掛けなどの配慮をこころがけている。出張理容も利用したり、なじみの美容院へもでかけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食後のメニュー書、き調理の補助や後片付けは利用者の大切な役割となっている。おはぎづくり、お好み焼き、日曜日の抹茶などできることは一緒におこない充実感につなげている。美味しさと減塩のバランスにも気を配っている。	職員と利用者が一緒に買い物に出かけたり、食事の準備や後片付け等は利用者が積極的に行なっている。おやつ作りやお好み焼きなども楽しみの一つである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりのペースを把握しその日の体調や状態の変化にも柔軟に対応している。水分の大切さは皆共有し工夫を重ねている。栄養面でも旬の野菜を多くとりいれ毎月体重管理をしながら楽しい食事を提供できるよう心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後洗面所で行なっていただいている。また入れ歯は毎日洗浄液で清潔を保っている。状況におうじて歯科往診や受診も支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをつかみチェック表を確認しながらその方に応じたタイミングで誘導やおむつ交換を行っている。紙パンツから布パンツへ変更したり使用するパットの種類も常に検討している。オムツ類は自己負担のため無駄のないよう家族の負担も考慮している。	トイレでの排泄を基本とし、職員が本人の排泄時間に合わせ声かけをしたり、表情を察知しさり気なくトイレに誘導した後は、そっと見守るようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然なお通じのために毎日のメニューに牛乳やヨーグルト・豆乳などを取り入れている。水分量にも配慮。毎朝のラジオ体操や散歩もこころがけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ひのきの家庭浴槽で一日おきに入浴をいただいている。希望があれば毎日入浴していただいたり順番に配慮しお1人ずつゆったり入浴できるよう支援している。利用者の状態によっては二人で介助し安全におこなっている。	利用者の希望に合わせた入浴支援を行なっている。拒否のある人には無理強いせず、色々な声かけや、時間帯を変えたりする工夫を行っている。また、午前・午後と湯の張り替えも行なっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の出来事や体調に合わせて個別に声掛けしたり希望を確認し自然なリズムができるようにしている。特に就寝前は気持ちが落ち着かなくなる方も多いため対応やこえかけに配慮し安眠につなげている。また室温や明るさも個々に合わせて配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの処方箋コピーを個人ファイルにはさみ常時確認できるようにしている。誤薬のないよう個人ケースに仕分けし処方の変更があれば職員に通告その後の変化を報告しあっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	いきいきと生活していただく場面をふやせるよう趣味や好みを把握し家事のお手伝いをお願いしたり草花の世話などで知恵をいただいている。午後両ユニット合同で歌や体操などのレクリエーションに興じたり食事に向いたりしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の要望を優先し日用品の買い物や外食などの支援に努めている。車イスでも喫茶店や外食にでかけられるようまた季節ごとに初もうで、黄葉見物などに出掛ける機会をつくり心身のリフレッシュをこころがけている。絵のお好きな方には美術館にもでかける。	日常的に利用者全員が駐車場での外気浴を楽しんでいる。職員は普段出かけられない人を優先して外出するよう心掛けている。近所のスーパーや喫茶店などこれまでの生活の継続として外出支援を行なっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望があれば自己管理できるようご家族にも協力理解いただきながら支援している。それがご本人の安心につながる場合が多いと認識している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればご本人からの電話がいつでもできるように支援をしている。できない方は母の日のプレゼントなどのお礼状を絵手紙で作成したはがきを活かし代筆代行している。家のことが気になる方には時には自宅まで車で同行することもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面には季節ごとに職員と利用者の手作りの作品で飾りつけをしている。カウンターキッチン越しにひろがる調理のにおい、旬の食材を味わうことで生活しているという意識をもっといただけるよう考慮している。また職員同士の会話が耳障りにならないようこころがけている。	共有空間には、利用者の作品(習字、貼り絵、切子刺繍、般若心経)などが飾られ、温かい空間作りがされている。リビングにはテレビ観賞用のソファが置かれ、電子ピアノが畳の部屋に置かれたり心地よく過ごせる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事のテーブル席だけでなくテレビを観ながらソファでくつろいだり玄関先の縁台でひなたぼっこや雑談を楽しんだり時にはひとりで時には気の合う者同士思い思いの時間を過ごせるよう常時工夫をかさねている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には造りつけの家具とベッドがある。テレビや使い慣れた家具や寝具の持ち込みも制限はしていない。コルクボードには作品や写真などを掲示、本人にも家族にも目にしていただけるようにしている。	備え付けのカーテンやクローゼットが設置されており、過ごしやすい環境作りが行われている。仏壇、テレビ、時計などが置いてあり、自宅に近い暮らしができる様に配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレに目印をつけ理解しやすくしたり変化する身体状況に考慮し絶えず環境整備に努めている。		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2373900634
事業所名	グループホーム ソブエピア

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい (外部評価項目: 2)	評価
	町内会に加入している。町内の回覧板とグループホームの広報 (認知症について) を月2回一緒に配布するなど、地域の方に認知症への理解を深める活動を行っている。利用者が楽しみにしている保育園児の歌やお遊戯を見るなどの交流を実施している。(年2回)	○
重点項目②	運営推進会を活かした取り組み (外部評価項目: 3)	評価
	出席者は町内会役員・市役所職員・家族・ホーム職員などである。会議では現状報告 (入退所報告) ・地域の方々について・訪問マッサージ開始について・事故報告などについて報告があり質疑応答があった。今後地域の方に来ていただくだけでなく、こちらからも出向くことも大切である事や参加者として消防団・地元の青年団・民生委員・区長等に呼びかけるように取り組んでいく。	×
重点項目③	市町村との連携 (外部評価項目: 4)	評価
	市役所担当者には何かあれば報告や相談に出向いていたが、今後は「ピアだより」を持参しグループホームでのサービスの取り組みを知ってもらうように積極的に伝えて行く。市の主催の感染症に関する講習会にも参加している。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映 (外部評価項目: 6)	評価
	家族会は今年年1回開かれた。利用者及び家族からの苦情や要望等は、玄関に意見箱を準備しているが入ってはいない。家族が職員に面会時に直接話すので、丁寧に対応している。要望に対しては、職員間や運営推進会議で意見交換を行ない改善に努めている。家族向けのホーム便りは月1回発行している。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	×
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		×

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	×	○	×	×	×	

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況 (外部評価) が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認 (記録、写真等) できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取り組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的 (年2回以上) に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的 (年2回以上) に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。